



# みどりの東北

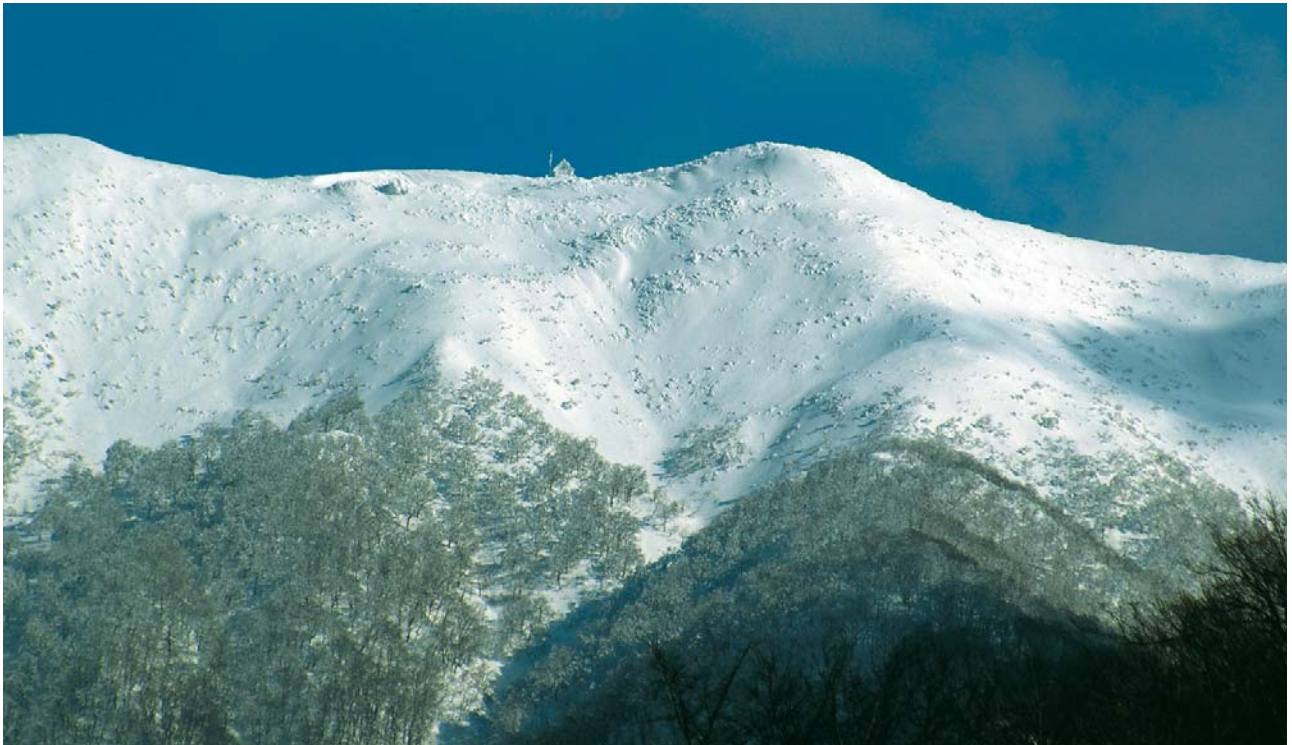
平成21年2月

## No.59

発行／東北森林管理局  
秋田市中通五丁目9-16  
TEL.018(836)2191

MIDORI no TOHOKU

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



### 白神岳（標高1,232m）

白神岳は、向白神岳とともに白神山地の中心となる山です。白神山地は、青森県南西部から秋田県北西部にまたがる広大な山々の総称で、世界最大級のブナ林が広がり、ほぼ原生のままの姿で残っています。

平成5年には、その中心部である約1万7千畝が世界自然遺産に登録されました。

白神山地は、特別天然記念物であるニホンカモシカや天然記念物のクマゲラなどの鳥類やアオモリマンテマなど、多くの貴重な動植物が生息・生育しています。

写真は、青森県西津軽郡深浦町国道101号線沿い「岩崎黒崎地区」から撮影。（写真中央上の建物は白神岳避難小屋）  
（写真提供：津軽白神森林環境保全ふれあいセンター）

## トピック

### 特集

「森林づくり推進功労者に感謝状贈呈」

販売課

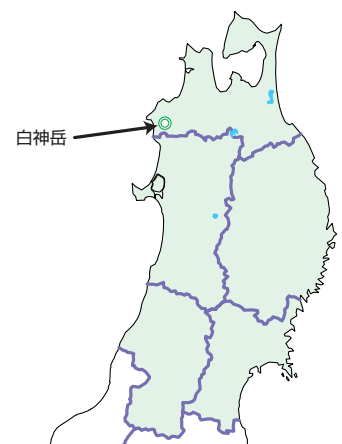
### 美しい森林づくり

「地域性を活かし企業連携で間伐等を推進」

宮城県石巻地区森林組合

### 我が署の隠れた名所

米代東部森林管理署 上小阿仁支署「桃洞滝」



この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
E3PA：環境保護印刷推進協議会  
<http://www.e3pa.com>



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



長官表彰を受賞した齋藤木材株式会社

一月二十八日、平成二十年度森林づくり感謝状贈呈式を秋田市「イヤタカ」において開催しました。

この感謝状の贈呈式は、「緑の社会資本」である森林づくりと適切な保全管理、国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生



を通じて、将来の世代に豊かな環境を引き継ぐことに多大な貢献のあった方々に謝意を表するものとして、昨年度から「森林づくり推進功労者感謝状贈呈式」の名称で開催して、本年度は、昨年六月十四日に発生した岩手・宮城内陸地震において被災地における二次災害の防止や応急対応等に貢献された方々を含む、二十二名の皆様に対して表彰を行いました。

感謝状の贈呈にあたり、山崎局長から謝意とともに、我が国の森林・林業行政は、森林・林業基本法に基づき、森林の有する多面的



山崎局長からの謝意

機能の発揮と林業の持続的かつ健全な発展を基本とし、その達成に向け多様な森林づくりや低コスト化等による国産材の需要拡大等の取組を進めており、これらを通じ将来の世代に豊かな森林環境を引き継ぐ取組に引き続きご協力いただきたい旨の挨拶がありました。

また、来賓を代表して駒井青森県林業協会会長からは、昨年の秋田県での全国植樹祭に言及したのち、三十年前の第二回全国育樹祭において、当時皇太子だった陛下が、「国の宝は山なり、山の衰えは国の衰えなり」の渋江政光遺訓に触れ、今後も木材の利用拡大に向け皆様と頑張っていきたいとの祝辞がありました。

最後に受賞者を代表して、齋藤木材（株）齋藤渉氏から、今後も様々な取組を重ね頑張っていく旨の決意が表明され、式典を終了しました。

機能の発揮と林業の持続的かつ健全な発展を基本とし、その達成に向け多様な森林づくりや低コスト化等による国産材の需要拡大等の取組を進めており、これらを通じ将来の世代に豊かな森林環境を引き継ぐ取組に引き続きご協力いただきたい旨の挨拶がありました。



来賓を代表し駒井青森県林業協会会長の祝辞

新任者略歴紹介 (1月16日付)

上小阿仁支署長

嶋田 理 (大阪府)  
しまだ おさむ



- 7・4 農林省入省
- 10・4 宮崎県林政企画課
- 17・4 林野庁計画課海外植林指導官
- 20・11 林野庁業務課



森林づくり推進功労者感謝状を贈呈された皆さん

# 感謝状受賞者名簿

(敬称略)

## 1 林野庁長官表彰

### ○ 国産材利用推進功労者

【国有林材の積極的な利用を通じて国産材の利用拡大と  
森林づくりの推進に顕著な功績のあった方】

(年間高額買受者)

齋藤木材株式会社	代表取締役	齋藤 静康
----------	-------	-------

(年間多量買受者)

株式会社 昭林	代表取締役	石川 勝也
株式会社 庄司製材所	代表取締役	庄司 和敏

## 2 東北森林管理局長表彰

### ○ 国産材利用推進功労者

【国有林材の積極的な利用を通じて国産材の利用拡大と  
森林づくりの推進に顕著な功績のあった方】

(年間高額買受者)

笹山木材株式会社	代表取締役	笹山 精喜
木村産業有限会社	代表取締役	木村 博
有限会社 志田林業	代表取締役	志田 俊道

(年間多量買受者)

株式会社 木島林業	代表取締役	木島 寿江
宮城十條林産株式会社	代表取締役	亀山 征弘
杉本林業株式会社	代表取締役	杉本 嘉輝

(年間樹種別高額買受者)

株式会社 渡辺事業所	代表取締役	渡辺美次雄
大館北秋田森林組合	代表理事組合長	大越 勝男

### ○ 森林づくり功労者

【間伐作業の技術開発・低コスト化を図り  
森林づくりの推進に多大な貢献をされた方】

野辺地林業有限会社	代表取締役	熊沢 忠次
-----------	-------	-------

【永年にわたる森林の巡視活動を通じて貴重な森林生態系の保全・  
保護に多大な貢献をされた方】

白神山地世界遺産地域巡視員		竹越 恵藏
---------------	--	-------

【ボランティア活動による森林づくりの推進に多大な貢献をされた団体】

馬場目川上流部にブナを植える会	代表	石川 雄一
ネイチャーフロント米沢	代表	青柳 和良

【岩手・宮城内陸地震において応急対応等尽力された方】

工藤建設株式会社	代表取締役	工藤 一博
株式会社 平野組	代表取締役社長	須田 光宏
株式会社 笹原組	代表取締役	遠藤 久之
三和建設株式会社	代表取締役	佐藤 信一
藤間建設株式会社	代表取締役	菊地 豊
丸か建設株式会社	代表取締役	佐々木浩章
栗駒木材株式会社	代表取締役	菅原 正義

# 地域性を活かした企業連携で 間伐等を推進

(合板用原木の安定供給体制の確立など)

宮城県石巻地区森林組合  
統括部長兼事業部長 大内 伸之

平成十三年六月地域の合板工場に試作用のスギ合板用原木を納入以来、早いもので八年を迎えようとしています。その後、石巻所在の他の合板工場も原木の国産材化のため、施設等の整備を図つた。平成十九年度実績で、三六三千㎡と約四割が国産材となり、今年度は五二〇



間伐作業状況

千㎡の計画とのことである。景気低迷で住宅着工が激減、各社三割から五割減産と大変厳しい状況の中、国産材について計画的な利用が図られていることは、私も供給者側は感謝しなければならぬと思います。戦後の植林地は間伐期を迎え保育間伐から収入間伐期に入り、材の活用が喫緊の課題であったことから、間伐で五割以上発生する合板向け原木の活用は、正に、間伐の推進役となっております。

## 間伐材利用による 再造林の低コスト化



間伐後の状況

数年前から製材用(A材)以外は採算割れから山に置いておくのが通常の作業でした。間伐を進める側にとつては、一番多く生産される材が合板材に活用(B材)されることで、生産性の向上に繋がります。また、このことが森林所有者への還元にも繋がります。組合としても事業確保が容易になってきております。

合板材以外に発生する未利用間伐材(C材・林地残材)、チップ材は、高性能林業機械を使うこと



合板材工場

で生産可能となり、製紙用、パーティクルボード、MIDF(中密度繊維板)の原料として幅広い



林地残材の活用でのセイホクバイオマス発電

く活用出来るようになっております。更に、林地残材(D材・枝葉)を活用し、バイオマス発電に供給する取組も始めています。資源を無駄なく利用すること、間伐材を100%利用することも可能になるものと考えております。このようなことを皆伐地に当てはめてみますと、山には残材がなく、再造林の低コスト化にも繋がります。今年度より、合板工場三社と木材の供給者側が、一㎡当り各々十円の負担金を拠出し、再造林支援を行う取組を始め、宮城県森林組合連合会が事務局となり「みやぎ森林づくり支援



リサイクルセンター全景(石巻森組)

センター」を設立し、森林所有者の負担軽減に努めております。

## 持続可能な林業経営へ

石巻市の工業港には大手の木材関連会社が軒を並べ、製材・合板・製紙用チップなど、国産材原木の活用を進めていることから、地域性を活かした企業連携で、国産材の一層の活用を目指して行きたいと考えております。

木材価格は依然として低迷しておりますが、高性能林業機械を最大限活用するなどして、低コストで効率的な作業を実現し、少しでも森林所有者へ還元できるように努めて参りたいと思います。

合板への利用を始め、国産材の活用が可能となった今を「チャンス」と捉え、造林事業から林産事業への転換を確実なものとし、間伐の繰り返しによる長伐期施業への移行など持続可能な森林経営を目指し、引き続き森林整備の推進と生産体制の整備に努め、官・民一体となった地域林業の振興と発展に邁進して参りますので、今後とも東北森林管理局・署のご指導をよろしくお願い致します。



単板切削状況



# 青森ヒバの森林の整備は 私たちの手で！

青森森林管理署

青森ヒバ（ヒノキアスナロ）は、その樹木の量の八割以上が青森県（特に津軽半島と下北半島）に生育し、天然秋田スギ、木曾ヒノキと並んで日本三大美林の一つになっています。厳しい北国で二百年近くかけて育った青森ヒバの木材は、年輪が緻密で美しいばかりでなく、他の国産針葉樹に比べ、細菌やカビ、ダニ、シロアリを寄せ

付けず、腐りにくいという性質に優れています。

**多くの市民に  
楽しんでもらいたい**

このような素晴らしい郷土の宝である青森ヒバを多くの市民の方々に触れて楽しんで頂くため、青森市内から車で四十分ほどのところに「眺望山 自然休養林」を設置していますが、五年ほど前から、市内の複数の団体が自ら手を上げて、森林管理署と連携しつつ、休養林内の遊歩道や休憩施設などの整備をボランティアで行ってきています。

毎年、(社)青森林業土木協会、



300mのバリアフリー遊歩道を作設



テーブル・ベンチなどの休憩施設を整備

三陸森の会、森林ボランティア青森の各団体の会員を中心とした約六十〜七十名の方々に汗とほこりにまみれながらの作業を行って頂いています。作業終了後は、「これでヒバ林浴に来た人にも喜んでもらえる」と皆さん一様に満足されています。

**次々とアイデアが・・・**

ボランティアの皆さんからは「来年は東口遊歩道にチップを敷いたらどうだ。」「いや、案内板をもっと増やすのが先だ。」など、いろいろなアイデア、意見が出されます。今年度、新たに十会員が加入した眺望山自然休養林の管理



無事、作業を終わって記念撮影

協議会とも連携を図りながら、これからもボランティアの皆さんの協力によって、市民のための青森ヒバの森林の整備を進めていきたいと思えます。

## 東北森林管理局 1階ロビーのご案内(2月)

・ミニギャラリー  
陶芸展  
青森市 鹿内美知子

・PRコーナー  
木材の利用推進  
経理課

【訂正とお詫ひ(1月31日)】  
九ページ「各地からの便り」の「青森ヒバ」体験ツアーを開催の開催者は青森森林管理署の誤りでした。

【森のお話】  
…コラム…

秋田スギ—雑感

森林総合研究所東北支所 森林資源管理研究グループ  
西園 朋広

【スギと秋田地方】

スギは日本における代表的な林業樹種です。かつて、秋田は銘木として名高い天然秋田スギの生産地として名を馳せました。天然秋田スギだけでなく、スギの人工林面積においても秋田県は日本で一番の面積を誇っています（表1）。

表1 スギ人工面積のランキング

順番	都道府県	面積(ha)
1	秋田県	366,494
2	宮崎県	243,940
3	岩手県	205,028
4	青森県	199,850
5	福島県	184,770
6	鹿児島県	159,502
7	山形県	158,524
8	高知県	157,048
9	熊本県	155,352
10	大分県	152,540

森林資源の現況調査  
(平成19年3月31日現在)より

スギの人工林面積の大きい都道府県をみると、東北、九州、四

国に分布しており、特に東北地方は全体的にスギ資源の多い地域であるといえそうです。

【秋田のスギはじわじわ伸びる】

このように、秋田地方は、昔からスギを育てて利用してきた地域です。では、スギにとって、秋田地方は生育に適した地域なのでしょう。植林してからの年数（林齢）と植林木の高さの関係を秋田、宮崎、高知と比較してみます（図1）。

そうすると、秋田のスギの若い頃の高さは他の地域と比べて小さく、最小の値を示します。しかし、歳を取るにつれて、他の地域の高さを追い抜き、最大の値を示すよ

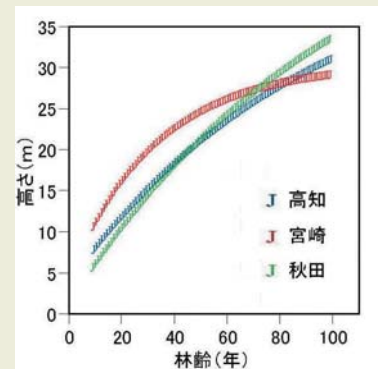


図1 スギ林の高さの成長  
林野庁「長期育成循環施業に対応する森林管理技術の開発」より

うになります。つまり、秋田地方で育つスギはじわじわ伸びる、晩成型だといえそうです。

【歳をとると丸くなる】

ところで、秋田地方の高齢天然スギ林を訪れてみると、スギの特徴的なカタチを目にすることができま。若いスギの樹冠は円錐形



図-2 若いスギ：尖った樹冠

で先の尖った形状（図2）をしています。高年齢天然スギのほとんどでは、モコモコした丸い形状をしています。私の聞ききた範囲では、植林地であっても（図3）、また他の地域であっても、高年齢になって高さが大きくなると樹冠は丸くなっていくようです。植林されたスギで丸くなったものは、奥山に入らなくても、神社やお寺の側で見かけることができます。このような社寺林では長い時間をかけて、大切にスギを育ててきたのでしょう。ふとした道すがら、樹冠の丸いスギを見かけたら、確認してみてください。そこには気づいていなかった祠（ほくら）があるかもしれません。

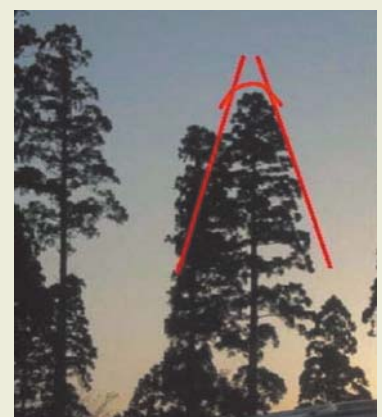


図-3 高齢スギ：丸い樹冠



# “地元と国有林を結ぶ 分収造林活動に奮戦中”

岩手南部森林管理署 遠野支署 土淵森林事務所

三浦 友敬

私が勤務している岩手南部森林管理署遠野支署土淵森林事務所は、岩手県のほぼ中央に位置する遠野市北側の国有林を管轄する森林事務所です。同市は、数々の民話が語り継がれ、柳田國男の名著「遠野物語」として民俗学の発祥の礎となった有名な所です。

管内には、カッパ伝説が残るカッパ淵や全国唯一の「カッパ狛犬」で知られる常堅寺があり一年を通じ観光客で賑わっています。

国有林では、旧放牧採草地を利用し、平成15年から市民ボランティア等の参加を得て「遠野市植樹祭」を実施し、更に「遊々の森」として遠野市と協定結び、ドングリから育てた苗木を植樹したり、鹿対策として試験的に防食ネットを実施したりし森林へ復元する活動を行っております。

また、平成19年度より遠野市独自の自然や伝統・文化を後生に残すためにスタートした「遠野遺産」に、管内から、春の水芭蕉で有名な「貞任水芭蕉群生地」と、溪流が美しく、映画「釣りバカ日誌」のロケ地にもなった「琴畑川溪流の白滝周辺」が認定されたため国有林の施業と調整を図りながら管理することとしております。



遠野遺産にもなった琴畑川溪流の白滝周辺

遠野営林署時代には200人を越す現場職員が居て活気を呈していたそうですが、今では

署全体で5名の現場職員となりました。このため地元の方々との付き合いは大切に考えているところです。当管内の地元は昔から国有林との結びつきが強く、特に分収造林事業に対する熱い思いには驚かされます。定期的に行われる分収造林組合員との会議には、組合員の世代交代もあり国有林や分収造林事業をより広く理解していただく絶好の場と捉え、機会ある毎に欠かさず足を運ぶこととしています。

時には思いが過熱し、施業等で支署と意見が合わずに結論に達するまで数ヶ月を要したこともあります。管内の分収造林地面積は約517haで、大部分が今後、年平均約16haの割合で伐期を迎えております。分収造林組合員や組合員の祖先が長きに亘り手塩にかけて育ててきた造林木が毎年のように販売され、今までの苦勞が報われ地元にも少しでも貢献していることに関係者の一人として誇りを感じるところです。分収造林事業を通じ地元の方々とお付き合いしている中で、より良い人間関係を創るためには役所言葉でなく、懇切丁寧に分かりやすく説明する会話や言葉の難しさ、重要性を改めて痛感しております。今後も、分収造林事業は勿論のこと、通常業務の遂行においても地元の方々に国有林を身近なものと感じてもらえるよう地元にも密着した森林官として努力してまいりたいと思います。



「遊々の森」での活動風景



旧採草放牧地を利用し実施した「遠野市植樹祭」

# 我が署の 隠れた名所

米代東部森林管理署上小阿仁支署

## とう どうの たき 「桃洞滝」

### (見所の概要)

森吉山県立自然公園周辺には、日本の滝百選に名を連ねる中ノ又溪谷の「安の滝」のほか、立又溪谷の「幸兵衛滝」、桃洞溪谷の「桃洞滝」、小又峡の「三階滝」等のたくさんの美しい滝があります。

その中から、「桃洞滝」を紹介します。

「桃洞滝」は、北秋田市の奥森吉と言われる森吉山の東山麓にあり、奥森吉のシンボルとなっています。

桃洞滝は、落差が約20mあり、水が岩肌を滑り落ちるように流れる美しい滝です。

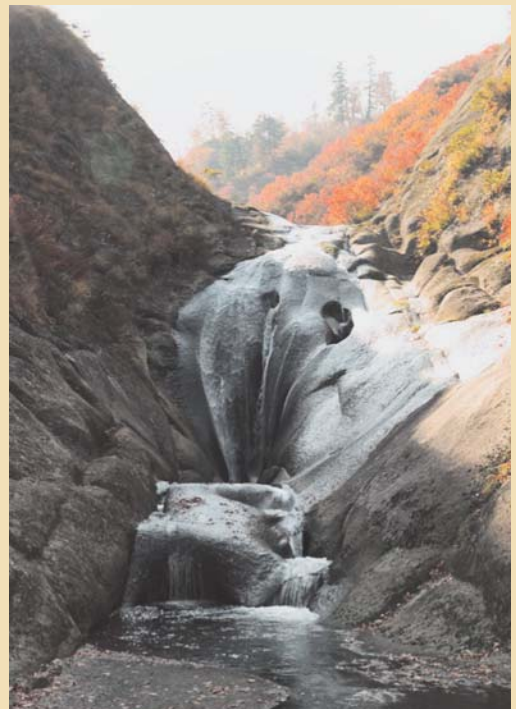
クマガラ保護センターから徒歩で滝へ向かう途中には、ブナ、ミズナラ、トチノキ、ヤチダモ等の大木の中を縫う歩道と、歩道から見え隠れするノロ川とのコントラストが、四季折々の美しさで訪れた人を歓迎してくれます。



桃洞滝へ向かう歩道

また、ノロ川の上流に位置する桃洞溪谷は、流を感じさせないゆったり感と、河床の滑らかな岩肌が心を癒してくれます。しかし、油断は禁物です、美しい河床には甌穴が潜んでいるので注意が必要です。

「桃洞滝」は、別名「女滝」と呼ばれ、子宝の滝、安産の滝として地元の人々に親しまれています。



### 交通アクセス

秋田県道「比内・森吉線」の森吉山荘付近からノロ川流域に入り、クマガラ保護センターまで11km、車で20分程です。

さらに、クマガラ保護センターから徒歩で65分程で桃洞滝に着きます。

お問い合わせ先

〒018-4401 秋田県北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中484-2  
電話番号：050-3160-5820 FAX：0186-77-2426